様式7　授業改善プロジェクト

アクション・リサーチのまとめ

英語教員指導力向上研修

受講番号 18038　**学校名** 佐川高等学校定時制　**氏名** 中山　良明

研究の背景

研究対象（学年、クラス等） 2年生　**生徒数** 7 名

科目名 英語Ⅰ　**単位数（授業時数）** 2 時間　**使用教科書名** VISTA English Series Ⅰ

クラスの様子・特徴

働きながら学んでいる生徒が大半で、男女比は男子2名、女子5名と女子の割合が2倍以上で、比較的静かなクラスである。学力に関しては低学力の問題を抱えている生徒もおり、一部の理解できている生徒との間で学力の2極化が顕著である。

問題の確定

単語・熟語等語彙力の欠如、英文法の理解不足、英語の仕組みが理解できていないことが問題点として挙げられる。

予備調査

A 授業の観察	B 生徒による授業評価	C 学力データ
板書することが遅い生徒に対しての対処がまず挙げられ、それに対しては一部内容をプリント化し、代わりに説明を聞く、英文を読む、英文の意味を理解する作業に十分に時間を取れるように改善した。これらの背景には語彙力の不足等があると思われる。	ARとして行う単語・文法・英作文小テストについて生徒へのアンケートを実施した。その結果、どのテストについても「良い」以上の評価が得られ、「やや悪い」「悪い」という評価は皆無であり、今回実施する3つの方法は生徒に評価されていると言える。	中学校レベルの単語500語の内、平均43．9%の認識率であり、最高は77%で最低は5%であった。また英検予想問題では語法・文法問題は5級が56．2%、4級が31．4%で英作問題では、5級が27．1%、4級が11．4%の正答率であった。

リサーチ・クエスチョン

英語の基礎学力の定着がなされていない英語の苦手な生徒が多いクラスにおいてどのようにすれば基礎的な英語力（単語力・文法力・英作力）の定着が図れるか。

仮説・実践・検証

仮説	⇒ 実践	⇒ 検証
単語について中学校の基礎単語からやり直す必要があるのではないか。基礎単語力があまりにも欠如しているため、英文を読むこと、文法問題を解くことが全くできていないことが判明したのである。返して言えば基礎単語の再学習により今より英語力を高めることができるのではないかと考えられる。	「中学校レベルの基礎的な単語力を身につけさせること。」を念頭に置いて取り組みをする。具体的にはできるだけ毎時間、授業の最初に10問ないし20問の英単語の意味を書くという小テストを行う。但し、ただ単語テストをするのではなく、あらかじめリサーチしておいた各生徒が覚えていない単語を指摘し2分間でその語を重点的に覚えさせた後、単語テストを行うという方法を採る。	基礎的な単語500語をテストした結果、予備調査の段階で認識率80%以上の生徒は皆無だったが、小テストを通じて全7名中6名が80%以上の正答率となった。また全体平均としても予備調査では43．9%であったのが89．7%と正答率が高くなり顕著に結果が現れたといえる。単語においてはこの実践方法により効果を上げたことが検証された。
仮説2 ⇒	実践2 ⇒	検証2
英文法について基本事項を再学習し、身に付ければ英語力（文法力）をより高めることができるのではないかと考えられる。	「基本的な文法事項を定着させること。」を念頭に置いて取り組みをする。具体的にはできるだけ毎時間、授業の最初に5問の文法問題の小テストを行う。但し、ただテストをするのではなく、あらかじめ、その日に行うテストの文法事項を、参考資料を使って説明（レクチャー）した直後にテストを行うという方式を採る。	文法事項19項目、合計123問の小テストをした結果、全7名中5名が80%以上の正答率であった。次いで2名が70%代であり、全体平均としても85．7%であった。文法事項においてはほぼ全員が理解できたと言える。また予備調査の英検5級予想問題の語法・文法問題において正答率60%以上が全7名中3名であったのが、7名中5名に増えた。全体平均としても56．2%であったのが71．0%に上がり結果を残した。
仮説3 ⇒	実践3 ⇒	検証3
英語のしくみについて基本事項を再学習し、身に付ければ英語力（英作力）をより高めることができるのではないかと考えられる。	「基本的な英語の仕組みを理解させること。」を念頭に置いて取り組みをする。具体的にはできるだけ毎時間、授業の最初に3問の並び換え英作文問題の小テストを行う。但し、ただ英作文問題をするのではなく、あらかじめその日に行うテストの事項を資料を使って説明（レクチャー）した直後にテストを行うという方式を採る。	英作文19項目、合計72問の小テストをした結果、80%以上の正答率の生徒は皆無であり、70%代1名、60%代3名にとどまり、全体平均でも54．2%であった。英作文においてはあまり内容が理解されなかったことが判明した。また予備調査の英検5級予想問題の英作問題において、正答率60%以上が全7名中1名であったのが、その後全く同じであった。全体平均としても27．1%であったのが38．6%であった。

研究の成果

単語学習が苦手であった生徒も徐々にうまく短期記憶を利用しながら確実に学んでいく方法、つまりインプットしたものを正確にアウトプットし知識を増やしていくやり方を全員が体得し自信をつけていったことが何よりもの成果であった。文法事項も、系統的に学習していき、説明（レクチャー）した直後に問題を解くことで確実に自分のものにしていった。ただ英作文においては単なる説明（レクチャー）しただけでは力が付くまでには至らず、書くという行為を通して英作する力をトレーニングする方法を採ることが必要であったと思う。

今後の授業改善の課題

単語の習得に関しては、語数が少なく、最低900語から1800語、また最低180の熟語も学習させる必要がある。文法もできるだけシンプルな問題を作成し教えてきたが、項目ごとにシンプルなものから徐々に複雑な構造のものに移行していき、その中で構造を見抜く力も養わせていきたい。また英作文は構造を理解させた後実際書くという行為を通して力をつけさせたい。それらの力を持って読む力を伸ばすことにも心掛けたい。

リサーチについての問合せ先：　職場電話　0889－22－1243　電子メール　yoshiaki_nakayama@kt3.kochinet.ed.jp